

第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和6年7月9日(火) 5時間目
第4学年3組 27名

研究主題

課題を自分事として捉え、互いの考えを認め合いながら解決できる児童の育成
～持続可能な社会づくりの担い手を育てる学習を踏まえた授業を柱に～

1 単元名

「絶滅の危機！どうする！？雑司が谷なす」

2 単元の目標

江戸時代から大正時代まで、学区内で盛んに栽培されていた雑司が谷なすが、一度は絶滅するも、地域の大人たちがそれを江戸東京伝統野菜として復活させ、後世に引き継いでいこうとしていること、しかし依然として絶滅危惧種に指定されていること等について、子供たちが友達と協働的にインタビューやインターネット等多様な手段で情報収集し、項目ごとに整理・分析しながらまとめることができるようにする。そして、自分たちにも何かできることはないかと、必要感をもって、それを自分事と捉えながら探究し、お互いの考えのよさを認め合いながら協働的に他者に広められるようにする。ほかにも、栽培や収穫、試食、販売状況調査、知名度調査等、自分たちにできることを考えながら体験的に活動し、一層自分事として取り組めるようにする。そうして郷土愛や、地域に関わろうとする態度を高められるようにする。

また、この学習から、現在行われている雑司が谷なす作りにおける露地栽培や地産地消は、持続可能な社会づくりの一端を担うよさがあることを知り、消費に対する自らの考えや行動も改善できるようにする。

さらに、単元の終末では互いに感想を交流し、この学習で得られた理解の深まりは、探究的に取り組んだ成果であることを感得・共有できるようにする。

3 評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現等	主体的に取り組む態度
評価規準	<p>①雑司が谷なすが絶滅の危機に瀕していること、また、それを阻止すべく地域の人たちが様々な取組を行っていることなどを理解している。</p> <p>②雑司が谷なすの現況について、インタビューやインターネット等による適切な方法で情報収集することができる。</p> <p>③雑司が谷なすについての理解の深まりは、地域の人たちと雑司が谷なすとの関係について探究的に学習してきた成果であることに気付いている。</p>	<p>①この学習を自分事と捉え、自分たちにも何かできることはないか必要感をもって課題を設定し、解決に向けた見通しをもっている。</p> <p>②課題の解決に必要な情報を、インタビューやインターネット等多様な手段で収集し、項目ごとに蓄積している。</p> <p>③課題の解決に向けて、項目に合わせて情報を整理・分析して考えている。</p> <p>④雑司が谷なすについて伝える相手やその目的に応じて、分かりやすく表現している。</p>	<p>①課題の解決に向けて、自分の考えのよさに気付き、探究的にすすんで取り組もうとしている。</p> <p>②課題の解決に向けて、自分と違う友達の考えのよさに気付き、認めながら協働して取り組もうとしている。</p> <p>③課題の解決に向け、自分でできることを積極的に考え、郷土を愛し、地域に関わろうとしている。</p> <p>④地産地消の大切さや持続可能な社会を実現するための行動をしようとしている。</p>

4 本研究を踏まえて

(1) 本単元がもつ教材としての意義

都市化による耕作地の減少に伴い、地域に根差した江戸東京伝統野菜・雑司が谷なす農家が減少し、より栽培が容易な千両なすが普及した。その結果、江戸時代より大正時代まで栽培されてきた雑司が谷なすが一度絶滅した。しかし今、地域の大人たちがそれを江戸東京伝統野菜として復活させ、地域の宝として後世に引き継いでいこうとしている。ところが依然として流通量は増えず、実際に絶滅危惧種にも指定されている。こうした事実について、自分たちにも何かできることはないかと必要感をもって、仲間と協働的に探究したり、様々な体験的活動に取り組んだり、学んだことや自分たちの思いや願いを他者に伝え広めたりする。中でも、学習のまとめとなる多様な他者へと発信する活動は、児童に大きな達成感や成就感、自己有用感等を味わわせることができる。そして学びの一層の深化と理解を促し、児童は探究的な学習のよさ・楽しさをも感得する。こうしたことから本単元の学習は、学習指導要領の目標を達成する上で、大変価値ある教材であると言えるだろう。

また、「持続可能な社会づくりの担い手育成」という観点から、この学習をとおし、児童は「地域の宝である雑司が谷なすを守っていききたい。」という気持ちを強く抱くことができる。さらに、そうした活動に取り組んでいる地域の大人たちの姿に共感し、郷土愛や地域に関わろうとする態度を高めることができる。これはとりもなおさず、SDGsの「11. 住み続けられるまちづくり」の精神に合致する。また、児童は露地栽培や地産地消は、それぞれ栽培費用や移送費用等のコストを削減させ、持続可能な社会づくりの一端を担うということを知る。実生活の中で行動範囲が拡大し、自ら消費行動を行うようになる4年生という発達段階において、消費に対する考えや行動の改善にもつながることが期待される教材である。

そして、本研究主題を達成するための視点との関わりから、視点1「課題を自分事として捉えさせるために」では、雑司が谷なすの現況や地域の大人たちの取組等について学ぶ中で、自分たちにもできることについて考えたり、体験的活動に取り組んだり、学んだことを広めたりすることは、自分事として捉えやすい。そして、視点2「互いの考えを認め合わせるために」では、一連の学習に仲間と協働的に取り組む中で、お互いの考えを出し合い、合意形成を図る過程で、それぞれの考えのよさを認め合うことができる。つまり本研究にとっても大変有効な教材である。

(2) 本単元を学習する上での児童の実態

児童は昨年度、総合的な学習の時間「校庭から始めるSDGs」の学習で、生息する生き物の種類や個々の生態等を調べることをとおし、環境保全の大切さについて学んだ。そこでは、学習指導要領でいう「自分たちの生活の中から問いを見だし、探究的・主体的に調べ学習に取り組む姿」が見られ、「環境保全に向け、自分も積極的に社会に参画しようとする態度」も醸成された。また、一昨年度の生活科に比べ、探究的に学ぶ楽しさについても一層感得できた。しかし、まだまだ「課題を自分で立てたり、協働的に学んだりする面」では、個々の児童によって差異があり、全体で取り組みながら随時個に応じて育てていく必要がある。

また、児童は昨年度、3年生のときに4年生から雑司が谷なすが美味しいこと、絶滅の危機に瀕していること等を教えてもらい、漠然としたレディネスはあるものの、その価値や希少性等について具体的には理解できておらず、とりもなおさずそのことを自分事として捉えてはいなかった。郷土愛についてもアンケートによれば、「雑司が谷が好き」と答えた児童は40%（10名/25名）と、クラスの半分以下であることが判明した。しかし、児童は4年生になったら自分たちも「雑司が谷なす」について調べてみたいという意欲や好奇心はもっていた。また、アンケートによれば、露地栽培の旬野菜はビニルハウスでの温室栽培と違い、あまりコストがかからないことや、地産地消は移送費の削減になること等は全く知らなかった。

そして、本研究主題を達成するための視点との関わりから、視点1「課題を自分事として捉えさせるために」では、児童は各教科の学習において、与えられた課題に対しては、解決に向けて真剣に取り組む姿が多々見られる。しかし、総合的な学習の時間において、自分から課題を見付けたり、それを「自分事として捉えたりする姿」はあまり見られない。次に、視点2「互いの考えを認め合わせるために」では、児童は課題解決に向け、仲間どうし関わり合いながら調べたり、まとめたりする姿は見られるが、お互いの考えのよさを「認め合いながら取り組む」までには至っていない。

5 本単元を指導する上でのポイント

以上を踏まえて、次のように指導し、本研究主題を達成する。

現在の本学級の児童が、学習指導要領の目標を達成するためには、「課題を自分で立てたり、協働的に学んだりする面」を努力させる必要がある。したがって、雑司が谷なすの現況や地域の大人たちの取組について学んだ上で、それを踏まえ、自分たちはどうしたいのかを考えさせ、自分たちにもできることを考えていくという課題を立てさせる。そして、課題解決に向けては、自分たちが考えた解決策を講じるために、グループの仲間と共に協働的に取り組ませていく。

また、「持続可能な社会づくりの担い手育成」という観点からは、雑司が谷なすの価値や希少性を学ぶに当たり、たくさんの地域の大人たちと関わらせる。そして、そういった大人への親近感や尊敬の念を抱けるよう

にし、ひいては郷土愛、地域に関わろうとする態度を高めていくことができるようにする。また、実際に露地栽培野菜や地産地消のメリットも調べさせ、雑司が谷なすを買って食べることは、持続可能な社会づくりの一端を担うことになることを理解できるようにする。

そして、本研究主題を達成するための視点との関わりから、次のように指導する。

<視点1>課題を自分事として捉えさせるために

◎ 課題解決に向けた必要感や切実感の抱かせ方の工夫

○ 外部講師の活用

- ・ まず、児童の「4年生になったら雑司が谷なすを勉強してみたい」という思いや願いを大切に、本単元の大導入で「雑司が谷なす博士になろう」という大きな課題をつくる。そして、ボランティア団体「豊島案内人雑司が谷」の方々4名から、雑司が谷なすにまつわる話を直接聞きながら、雑司が谷を案内してもらう。
 - ・ また、そこで訪れた雑司が谷なすの発祥の地・大鳥神社では宮司さんからは、江戸時代から大正時代まで栽培されていた江戸東京野菜・雑司が谷なすは、まさに地域の宝であるということ、そして一度生産が途絶えるも、地域の大人たちによってなんとか復活したこと、しかしながら今も絶滅危機に瀕しているということを教えてもらう。
 - ・ そして、その後日、実際に復活させた江戸東京伝統野菜研究会の方々から、若い世代も巻き込み、後世につないでいこうと、千登世橋中学校で生徒と一緒に畑を作り、ジーンバンクに保存されていた種を使って復活させた話を聞く。また、大正時代まで栽培されていた江戸東京野菜の中で、雑司が谷なすは美味しいと評判が良かったことや、種（しゅ）の保存の観点から食糧の多様性を残すことは大切であるということから復活を試みたという話も聞く。
 - ・ さらには、JA東京あおばの職員の方や生産者の方からも、実際に栽培する上での注意点や、味は甘みが強く美味しいこと、ひいては「やめるのは簡単。でも美味しいから作っている。こんなに美味しいなすがあるということを、みんなにもっと知ってほしい。」といった思いや願いを話してもらう。
- 以上のようにして、外部講師を活用し、雑司が谷なすを取り巻く地域の大人たちにふれ、生の話を聴くことで、そういった大人たちへの親近感や尊敬の念を抱くことができるようにし、その思いに共感できるようにする。結果、児童一人一人が課題解決に向けた必要感や切実感を抱けるようにする。

○ 様々な体験的活動

- ・ 児童の「自分たちもやってみよう」という思いや願いを大切にしながら、雑司が谷なすを栽培、収穫、試食するといった体験的な活動に取り組ませる。これにより、学習意欲を喚起するとともに、雑司が谷なすへの愛着が一層もてるようにする。そこで実際に、歯応えがあり甘みのある美味しさを味わうということは、何より雑司が谷なすを守っていききたいという思いに直結するはずである。
 - ・ そして、実際にスーパーマーケットや小売店等での販売状況を調査し、容易には買えない（販売していない）こと、さらには教職員に対し知名度を調査し、知名度はあるが食べたことがない人が多いこと等に気付くことができるようにし、その価値や希少性を捉えることができるようにする。
 - ・ さらに、学んだことを多様な他者に広める活動を行うことも、学習への意欲を大いに喚起する。
- 以上のような一連の体験活動により、児童一人一人の意欲の喚起が図られ、それはやがて課題解決に向けた必要感や切実感へと昇華されていくものとする。

○ ジレンマを抱かせる揺さ振りの発問

雑司が谷なすについて、ひとしきり学んだ上で、雑司が谷なすはこれからどうなってしまうのか、将来は残っているのか、残念ではあるがなくなったら本当にそんなに困るものなのか等、揺さ振る発問によりジレンマを抱かせ、「地域の宝を守っていききたい」という思いを内発的に抱かせ、そこから課題解決に向けた必要感や切実感を抱くことができるようにする。

<視点2>互いの考えを認め合わせるために

◎ 互いの考えのよさに気付かせる工夫

○ 生活班での協働的な活動と、合意形成の図らせ方の工夫

- ・ 雑司が谷なすの現況や地域の大人たちの取組等について学んだ上で、栽培活動の強化、種子の配布、他者への発表、ポスターの掲示、リーフレットやチラシの配布等、自分たちにも何かできることはないか考えさせる。そしてその課題解決に向け、個の考えも大切にしながら生活班で協働的に取り組ませる。
- ・ また、その際は全員の考えを尊重し合い、多数決でなく折衷案（合体案）を採用させたり、順番に少しずつ全てを行う順番案を採用させたりする。したがって、たとえマイノリティー（少数意見）でもその考えを大切にさせる。次に、考えを出す過程では実現可能か否かにこだわらず、自由闊達に様々なアイデアを出し合い、お互いにそのよさを認め合えるようにし、もし実現が難しそうなものであれば、ど

うすればそれが実行できるかお互いに知恵を出し合うよう促す。そうして、お互いの考えを認め合いながら、生き生きと笑顔で合意形成を図る雰囲気づくりも大事にする。

○ 振り返りのさせ方の工夫

毎時間の振り返りの際は、自己の変容と共に必ず友達の考えのよさについて述べさせる。また、その際、友達の考えのよさによる自分自身の変容を書いている(メタ認知)児童を意図的指名で共有し、価値付け、認め合う風土の醸成を図る。

6 単元の指導計画 (全37時間扱い)

小単元	学 習 活 動	知	思	態	◇評価 ○・視支援
雑司が谷なすについて調べたり、インタビューしたりして、「雑司が谷なす博士」になろう (17時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、4年生から学んだ雑司が谷なすについて振り返り、どんな学習をしていきたいか考え、学習計画を立てる。(1) ・インターネットで情報を集め、歴史や調理法、味等、項目ごとに整理・分析しながらまとめ、地域の詳しい大人たちに質問・インタビューすることを決める。(1) ・「豊島案内人雑司が谷」の方4名に雑司が谷で案内してもらいながら探訪し、雑司が谷なすはどのようにして作られていて、なぜ消えていったのか等の話を聞く。(2) ・大鳥神社を訪れ、宮司さんから、雑司が谷なすは神社が発祥の地であること、今後も地域の宝として後世に引き継いでいきたいこと等の話を聞く。(1) ・学んだことを整理・分析しながらまとめる。(3) ・JA東京あおばの方、生産者の方から、雑司が谷なすの希少性や価値、育て方、「美味しさをもっと知ってほしい」という思いや願い、露地栽培野菜・地産地消は環境にも優しく、持続可能な社会づくりにつながることを等の話を聞く。(2) ・各家庭で雑司が谷なすをスーパーマーケットや小売店等の店頭で探す(販売状況調査をする)。(家庭学習) ・教職員や保護者に、雑司が谷なすを食べたことがあるか、インタビューする(知名度調査をする)。(休み時間) ・栄養教諭の先生から、復活を遂げた江戸東京伝統野菜が52種類あり、練馬大根のように完全復活を遂げたものもあるという話を聞く。(1) ・江戸東京伝統野菜研究会の方から、大正時代に一度、雑司が谷なす農家が消滅し、絶滅するも、2011年に区内千登世橋中学校内で復活栽培を行った話を聞く。(2) ・大鳥神社から雑司が谷なすをもらい、植える。(1) ・水やり、台木や穂木の芽かき、除草等の世話をしたり、観察日記を書いたりする。(朝や休み時間) ・雑司が谷なすと普通のなすを食べ比べ、雑司が谷なすの味わい(弾力性に富み、甘みが強い等)を知る。(3) ・実がなったら最初の一つを収穫し、そこから種を取り、全員が自分だけの雑司が谷なすを育てる。(朝や休み時間) 	① ②	① ② ③	① ②	◇ノート ◇PC端末 ◇振り返り ○項目や質問・インタビューの内容が決まらない場合、友達のを参考にさせ、協働的に取り組ませる。 ○学んだことを整理・分析できない場合、まず項目から決めさせる。 ○露地栽培野菜・地産地消については、環境への配慮があることを具体的に補足説明し、持続可能な社会づくりにつながることを知らせる。 視1自分事と捉えられない場合、地域の大人たちの取組の尊さや、生産者の思いや願いを考えさせ、共感させる。 視1自分事として世話ができていない場合、台木の芽かきをしないと、雑司が谷なすが大きくなることを補足説明する。

<p>2 雑司が谷なすを守ったり、いろいろな人に伝えたりする計画を立て、準備をしよう (15時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 販売状況調査や知名度調査を振り返り、今後どのような活動をしていったらよいか考え、学習課題「地域の宝・雑司が谷なすを絶滅の危機から守れ！」を立てる。(1) どうやったら雑司が谷なすを絶滅から守れるか調べ、自分の考えをもつ。(3) どうやったら雑司が谷なすを守れるか、方策について話し合う。(1)(本時) グループごとに雑司が谷なすを守るための活動に取り組むとともに、そのことを広める(発表する)ための資料を作成する。(6) グループごとに発表に向けて練習をし、他クラスに発表する。(2) 他のクラスからのアドバイスをもとに修正する。(2) 	<p>① ②</p>	<p>① ② ③</p>	<p>① ② ③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ノート ◇振り返り ◇PC端末 視1自分事として捉えていない場合、学習を再度振り返らせ、広報活動の必要性を再確認させる。 視2友達の考えを認めることができない場合、合意形成の回り方について具体的に指導する。
<p>3 雑司が谷なすについての情報を、いろいろな人に伝え、その人たちと交流しよう(2時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに、雑司が谷なすについて伝え広める。(種を配ったり、発表したり、ポスターを貼ったりする。(1) 伝えた相手からの意見や質問に答えたり、感想を聞いたり、アドバイスを受けたりするとともに、自分たちもさらに感想を伝える。(1) 	<p>①</p>	<p>① ④</p>	<p>② ③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ノート ◇PC端末 ◇行動・発言 ○分かりやすく表現できない場合、相手の立場に立って伝えるよう促す。 視1自分事として捉えていない場合、学習を再度振り返らせ、改めて必要感をもたせる。
<p>4 学習を振り返り、これからの買い物の仕方や、探究的に取り組んできた成果について話し合おう (2時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習を振り返り、感想を書き、これからの買い物の仕方や、探究的に取り組んできた成果について考える。(1) 感想を交流し、自分の変容や友達のよかったところを伝え合う。(1) 	<p>④</p>		<p>③ ④</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ノート ◇振り返り ◇行動・発言 ○郷土愛や地域に関わろうとする態度がもてない場合、地域の大人の気持ちを想起させる。 ○買い物の仕方を考えていない場合、再度、持続可能な社会づくりの大切さを考えさせる。 ○探究的な学習のよさが分からない場合、なぜ理解がしっかりと深まったのか考えさせる。

7 小単元の指導計画 (総時数15時間)

次	学 習 活 動	知	思	態	◇評価方法 ○・ 視 支援方法
1	今後どのような活動をしていったらよいか考え、学習課題「どうすれば雑司が谷なすを守れるだろう。」を立てる。(1)	① ②	① ② ③	① ② ③	◇ノート・振り返り・発言 ○今後の活動や課題について考えられない場合、学んできたことを再度しっかりと振り返らせるとともに、友達の考えを参考にさせる。 視1 自分事として捉え切れていない場合、これまでの学習を再度振り返らせ、広報活動の必要性を再確認させる。
2	どうやったら雑司が谷なすを絶滅から守れるか調べ、自分の考えをもつ。(3)				◇ノート・振り返り・発言・PC端末 視1 自分事として捉え切れていない場合、これまでの学習を再度振り返らせ、雑司が谷なすを守っていく活動の必要性を再確認させる。
3	生活班で、どうやったら雑司が谷なすを守れるか、方策について話し合う。(1)(本時)				◇ノート・振り返り・発言・PC端末 視1 自分事として捉え切れていない場合、これまでの学習を再度振り返らせ、雑司が谷なすを守っていく活動の必要性を再確認させる。 視2 友達の考えを認めることができない場合、合意形成の図り方について具体的に指導する。
4	生活班ごとに雑司が谷なすを守るための活動に取り組むとともに、そのことを広める(発表する)ための資料を作成する。(6)				◇ノート・振り返り・発言・PC端末 ○発表原稿・資料等がうまく作成できない場合、項目や伝え方について個に応じて支援したり、友達のやり方を参考にさせたりする。
5	生活班ごとに発表に向けて練習をし、他クラスに発表する。(2)				◇ノート・振り返り・発言・PC端末 ○分かりやすく伝えられない場合、聞く側の立場に立って考えるよう促したり、上手に伝えている友達のやり方を参考にさせたりする。
6	他のクラスからのアドバイスをもとに修正する。(2)				◇ノート・振り返り・発言・PC端末 ○うまく修正できない場合、個に応じて発表の仕方等について指導する。

8 本時のねらい (5時間目/総時数15時間)

- ・ 雑司が谷なすが地域の宝であること、それが今、絶滅危惧種になっていることを自分事と捉え、自分たちにも何かできることはないか必要感をもって課題を設定することができる。(思考・判断・表現等)
- ・ 課題の解決に向けて、自分と違う友達の考えのよさに気付き、認めながら協働して取り組もうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

9 本時の展開

時間	学習活動・内容	視○指導上の留意点 ◇評価【観点】(方法)
0	<p>1 これまでの学習を振り返り、本時の課題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の宝 ○ 残していこうとしている人がいる。 ○ 歯応えと甘みがあり、美味しい。 ○ 露地栽培や地産地消は環境に優しい。 ○ 売っておらず、知らない人も多い。 ○ 絶滅の危機に瀕している。 ○ 将来、このままではなくなってしまう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>どうすれば、雑司が谷なすを守れるだろう。</p> </div>	<p>視1 前時までの学習を振り返り、課題意識の高揚と学習意欲の喚起を図り、改めて課題を自分事化させる。</p> <p>視1 栄養教諭から学んだ「江戸東京野菜の練馬大根と同様、給食で雑司が谷なすを食べたい際、供給量が増えれば出せること」を確認し、意欲を一層喚起する。</p> <p>◇雑司が谷なすが地域の宝であること、それが今、絶滅危惧種になっていることを自分事と捉え、自分たちにも何かできることはないか必要感をもって課題を設定することができたか。【思】(ノート分析)</p> <p>視1 自分事として捉え切れていない場合、学習を再度振り返らせ、活動の必要性を再確認させる。</p>
10	<p>2 生活班で話し合い、決まったことをタブレット端末(ミライシードのムーブノート)にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今、育てているものを、もっと大切に育てる。 ○ 種をとり、配る。 ○ いろいろな人に伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育館や区民ひろば目白で、プレゼンテーション。 ・ 駅や公民館で、ポスターの掲示、チラシ、新聞、リーフレット、パンフレットの配布。 ・ 学校のHPへの掲載。 ○ 生産者とレストランを結ぶ。 ○ 試食会を開く。 等 	<p>○自分の考えをしっかりとって話し合えるよう、前時までに自分の取り組みたい内容とその理由をタブレット端末に書いておかせ。</p> <p>視2 多様な考えが表出し、互いの考えのよさを認め合う場面が多く生まれるよう、生活班で話し合わせる。</p> <p>視2 考えは必ず理由とともに述べさせ、話し方を身に付けさせながら、よさの認め合いにつなげる。</p> <p>○座席表を活用し、個々の考えを記入・把握しておき、意図的・計画的に机間指導し、合意形成を促す。</p> <p>○これからの学習のスパンを示し、取組を決める話合いの一助とさせる。</p> <p>視2 合意形成を図る際は多数決を避け、少数意見も大切に折衷案(合体案)や順番案等を基本とさせ、合意形成の図り方の理解につなげる。</p> <p>視2 実現可能か否かにこだわらず、自由闊達に様々なアイデアを出し合い、お互いにそのよさを認め合えるようにする。その際、実現が難しそうなものであれば、どうすればそれが実行できるかお互いに知恵を出し合うよう促す。そうして、生き生きと笑顔で合意形成を図る雰囲気づくりも大事にする。</p> <p>◇課題の解決に向けて、自分と違う友達の考えのよさに気付き、認めながら協働して取り組もうとしていたか。【主】(ワークシート分析・様子観察)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><努力を要する児童への支援></p> <p>視2 友達の考えのよさを認めることができない場合、合意形成の図り方について具体的に指導する。</p> </div>
25	<p>3 話し合った結果を書いたタブレット端末を見比べながら、全体で発表・共有する。</p> <p>(1)発表を聞く。</p> <p>(2)お互いの考えにコメントを書く。</p>	<p>視2 タブレット端末で比較検討しながら共有し、共通項を見だし、それぞれの考えを一層価値付ける。</p> <p>視2 お互いのグループの考えに称賛のコメントを書かせ、認め合いにつなげる</p>
35	<p>4 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>例：もっと大切に育てる。種を配る。現況を発表する。生産者と飲食店をつなぐ。等</p> </div>	<p>○課題と正対しながら、児童と共にまとめ、学びの整合性をもたせるとともに、学習の仕方の指導につなげる。</p>
40	<p>5 振り返る。</p>	<p>視2 友達の考えのよさによる自分自身の変容を書いている(メタ認知)児童を意図的指名で共有し、認め合う風土の醸成を図る。</p>

